

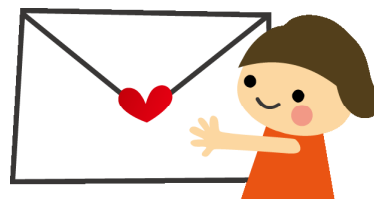
家庭や地域社会との連携を図った指導

道徳の時間の指導を工夫していくには、柔軟な発想が必要です。下記を参考にして、家庭や地域社会との連携を図った指導を進めていきましょう。

1 地域の人や保護者の参加を得た学習などを積極的に取り入れる。

(1) 保護者からの手紙を生かす。

例えば、家族愛【小学校低学年、中学年4－(3)、高学年4－(5)、中学校4－(6)】を中心的な価値として指導計画を作成する場合、事前に保護者に児童生徒向けの手紙の作成を依頼し、授業でそれを活用するという方法があります。



ねらいとする価値から離れないように、何のために（何をねらいとして）どのような内容を書いてもらうのかを明確にして依頼しましょう。（父母への感謝の気持ちを持たせたいときは、生まれてきたときの親の喜びや子育ての苦労等を書いてもらうよう依頼する等）

また、保護者には趣旨を十分に説明するとともに、書いてもらった手紙はプライバシーに配慮して大切に取り扱いましょう。



(2) 地域の人による資料提示を生かし、地域の人に向けて願いを伝える。

例えば、郷土愛【小学校低学年、中学年4－(5)、高学年4－(7)、中学校4－(8)】を中心的な価値として指導計画を作成する場合、地域の自然や文化、行事、先人の努力に詳しい方を招いてお話をしていただいたり、郷土の伝統的な芸能を鑑賞したり体験する会を催しそれを題材として道徳の授業で講話等をして頂く機会を設けるなどの方法があります。さらに、質問をしたり意見を交換したりするなどして興味を深め地域や郷土に関心や愛情を持つように工夫するという方法があります。

2 道徳の時間の公開

道徳の授業を家庭や地域に公開していくことは、授業の質を高め、授業の活性化を図ったり、開かれた学校教育を推進したりする意味で大変重要です。積極的に進めましょう。



(1) 保護者だけでなく地域の方々にも公開する。

例えば、学期末保護者会等の授業参観や、例年11月に予定されている「学校へ行こう週間」に全ての学級で道徳の授業を実施する方法もあります。この時、対象を保護者だけでなく地域の方々も含めて開催します。また、年間に複数回道徳の授業を公開することも積極的に進めていきましょう。

(2) 道徳の授業の公開に合わせて様々な工夫をするとさらに効果的です。

例えば、道徳の授業を公開するときに「保護者からの手紙」、「地域の人による資料提示を生かす、地域の人に向けて願いを伝える」を取り入れたり、「校長、教頭の道徳の授業への参加」、「他の教師との協力的な指導」を組み合わせることで、道徳教育に学校が主体となり家庭や地域が一体となって取り組んでいるところや、道徳教育を学校全体で推進していることを保護者や地域の人に理解してもらう機会とすることができます。



さらに、授業の公開に合わせて PTA 主催の教育講演会を企画し、心の教育や道徳教育に関する講演会やシンポジウムを企画することも考えられます。また、シンポジウム等で明らかになった課題や問題点に着目し解決していくような体験活動を企画することも考えられます。

(3) 感想や評価をしてもらい指導の改善に生かす

授業を参観した保護者や地域の方の感想や意見を集約し、自校の道徳教育の改善に生かすことも考えられます。